

# 大分県新長期総合計画策定県民会議 第3回未来創造部会 委員発言要旨

日時：令和6年2月22日(木)10:00~12:15

場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

No.	項目	発言要旨
1	未来創造1 (1) 交通	・豊予海峡ルートの記事検証には、フェリー輸送が共存できる対策の検証が必要。フェリー事業者は、脱炭素の流れの中でモーダルシフトの受け皿となっており、災害時の大量海上輸送にも貢献できることに着目いただきたい。
2	未来創造1 (1) 交通	・目指す姿の1つ目に、高規格道路と新幹線を併記した形で、人と物の流れが活性化していると記載しているが、10年後でも新幹線はまだ検討段階と思われるため、切り離した方がよいのではないかと。
3	未来創造1 (1) 交通	・目標指標③「九州の東の玄関口としての拠点化主要施設」には、主要駅を含めてもよいのではないかと。空港や港だけでなく、鉄道主要駅も十分に玄関口となる。
4	未来創造1 (1) 交通	・目指す姿の1つ目に、「人と物の流れが活性化している」とあるため、どのくらい活性化したかが分かる指標を盛り込んではどうかと。
5	未来創造1 (2) 交通	・別府港のフェリーターミナルの再編については、建屋、駐車場、接続する二次交通のバスターミナル、商業施設も含めた一体的な再編整備が必要であると。
6	未来創造1 (2) 交通	・幹線道路の交通渋滞やバスダイヤの乱れが常態化する中、観光県として、観光客をもてなす意識を上げていくためにも、二次交通の確保だけでなく、利便性・サービスの向上、おもてなし等の文言も入れる必要があると考える。
7	未来創造1 (2) 交通	・大分空港の利便性向上について、「ホバークラフトやアクセス道路等の充実」とあるが、次世代空モビリティの活用等も含んだ表現に変更してはどうかと。
8	未来創造1 (3) 交通	・高校の部活動で帰宅時間が遅くなった場合に、公共交通機関の時間が合わず、親の送迎で対応しているケースが増えている。利用者減による減便という悪循環につながり、事業者目線では従業員の働き方にも関わってくるため、学校と話し合うなど効率的な輸送を模索してはどうかと。
9	未来創造1 (3) 交通	・施策や取組の記載順をみて、地域交通よりもインフラ整備が先なのかという印象を受けた。県の令和6年度当初予算案でも、地域交通の担い手対策等に力を入れている中、新長計でも地域交通や担い手確保を大切にする見せ方をしてもよいのではないかと。
10	未来創造2 (1) 移住 定住	・移住者だけでなく、元々住んでいる方の満足度や幸福度を測る指標を加えてはどうかと。地域元気指数という調査も参考にしてほしい。
11	未来創造2 (1) 移住 定住	・子育て世代や若者が定着し、活躍している姿についても、指標に掲げて測定してはどうかと。例えば、年代別の在住人口比較などが考えられる。

No.	項目	発言要旨
12	未来創造2 (1) 移住 定住	・実施した施策の効果を検証し、見える化するべき。移住促進など外向きの施策のみならず、内向きの施策についても、チェックできる仕組みが望ましい。
13	未来創造2 (1) 移住 定住	・移住促進には、より若い世代である中学生等に向けた発信が大切。大分県には日田林工や林業アカデミー等の強みがある。県外の中学生が本県の高校に進学し、そのまま県内企業に就職すれば、林業の担い手確保にもつながるのではないかと。
14	未来創造2 (1) 移住 定住	・県外へ転出するのは高校卒業後、進学タイミングが多いが、将来の就職を見据えたときに、学びたいことを学べる環境が少ないと感じる。定住促進に向けては、魅力ある学校づくりに取り組む必要があるのではないかと。
15	未来創造2 (1) 移住 定住	・空き家については、家具がそのまま残されているなど、空き家バンクに登録できる状態にないものが多い。そういった空き家を所有する方の相談窓口の設置や件数の把握を進めれば、活用が進むのではないかと。
16	未来創造2 (1) 移住 定住	・小・中学校時代に不登校等の経験があるこどもは県外に出て行くことが多い。フリースクールも含めて、大分に愛着を感じられるように育てることができれば、一度県外に出ていずれ帰ってきてくれるのではないかと。 ・不登校のこどもが社会に出て働けるような支援も定住促進の一面となる。
17	未来創造2 (1) 移住 定住	・テレワークの促進には、企業がテレワーカーを採用する際のノウハウや支援策をまとめてあげることが必要。支援策としては、テレワーク開始前のノウハウ取得期間を設ける企業へのサポート、在宅環境の整備支援、こどもを保育園に預けやすい仕組みづくり、テレワーカー同士の交流の場づくり、ITトラブルサポート窓口の設置等があるとありがたい。
18	未来創造2 (1) 移住 定住	・大学と県内企業の共同研究に学生も巻き込むことにより、学生が県内企業のことを知り、定着したいという気持ちが高まると思うので、そういった大学の取組を後押ししてほしい。
19	未来創造2 (1) 移住 定住	・空き家の利活用への補助について、居住目的のみならず、事業目的で活用する場合にも対象を拡大すると、さらなる移住・定住の促進につながるのではないかと。
20	未来創造2 (1) 移住 定住	・移住希望者から本県を選んでもらうには、「安心」「元気」分野の施策も含め、本県の魅力を高めるとともに、大分県が求める人材像等に見える化し、こちらからオファーするぐらいの気持ちで取組を進めることが重要。
21	未来創造2 (1) 移住 定住	・若年層の県内就職率を高めるためには、若者が働きたくなるような職場づくりが必要。既存の県内企業の魅力を高める取組が必要ではないかと。
22	未来創造2 (1) 移住 定住	・移住の検討に向けては、こどもの保育園、小・中学校の都合で動きたくても動けない方が多い。お試し期間として、保育園留学のような仕組みを検討いただきたい。

No.	項目	発言要旨
23	未来創造2 (1) 移住定住	・移住促進策には外国籍住民も含むと考えられるので、多言語による情報発信など、工夫を加えた記載ができないか。
24	未来創造2 (1) 移住定住	・主な取組②「魅力ある働く場への就職支援等の充実」に、公共交通の担い手確保に向けた支援についても追加いただきたい。
25	未来創造3 (1) (2) カーボンニュートラル	・カーボンニュートラルの施策は、グリーン・コンビナートおおいた推進構想の実現に向けた取組をはじめ、必要な内容がしっかりと盛り込まれており、賛同する。
26	未来創造3 (1) (2) カーボンニュートラル	・先般開催されたCOP28での議論を受けて、各国は2025年までに2035年の削減目標を国連に提出することになる。もう一步踏み込んだ取組が求められる可能性があることを念頭に置く必要がある。
27	未来創造3 (1) カーボンニュートラル	・吸収源対策の強化には、再生林の推進に加え、未整備森林の間伐等の整備推進についても盛り込んではどうか。
28	未来創造3 (1) カーボンニュートラル	・環境対策をビジネスチャンスにつなげる取組には大いに賛同する。J-クレジットの活用により、県内の森林や環境を守る事業者に新たな資金が落ちるので、雇用の創出や魅力ある産業の創出につながると思う。
29	未来創造3 (2) カーボンニュートラル	・グリーン・コンビナートおおいた推進構想は、比較的大きな企業が取組かと思うが、広く県内企業の意識醸成に向けた取組が必要ではないか。
30	未来創造4 (1) DX	・主な取組②の農林水産業における省人化について、「省人化」という言葉は、ネガティブな印象を与えかねないので、省力化などの表現にした方がよいのではないか。
31	未来創造4 (1) DX	・県外企業等とのネットワーク構築やマッチング強化は重要な取組。先端技術の施策と同様に、DXの施策においても、盛り込むべきではないか。
32	未来創造4 (1) DX	・プログラミングを学び直す人が増えているが、学んだ後に、デジタル人材を求める県内中小企業とマッチングする機会があるとよいのではないか。
33	未来創造4 (2) DX	・国、県、市町村のデータを上手くリンクさせながら、県民がデータを活用しやすい環境をつくることが重要。暮らしを支えるDXの成果を測る指標として、県民によるデータの活用件数が考えられるのではないか。 ・森林が持つ炭素量や木の成長量などを航空レーザー等で可視化する技術もある。 ・医療MaaSの導入件数や公共交通におけるICカード普及率も指標の案のひとつ。

No.	項目	発言要旨
34	未来創造5(1)教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校のこどもたちも、確かな学力や豊かな心の育成に関係すると思うので、例えば、5(3)の目標指標①「学校内外の機関等による専門的な相談・指導を受けた不登校児童生徒の割合」を5(1)に移すなどを検討いただきたい。</li> <li>・支援が必要なこどもが、どのくらい支援を受けて、学力の向上や充実感を感じているかを測る視点も指標の中に入れてもらえないか。</li> </ul>
35	未来創造5(2)教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な取組③に、各学校段階に応じたキャリア教育の推進とあるが、小・中・高と切れ目のない取組になっていないと感じる。より具体的に計画して実施すべきではないか。</li> </ul>
36	未来創造5(2)教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フリースクールに通うこどもたちには時間があるので、言語教育にも多くの時間を割くことができる。ぜひ、グローバル人材の育成のターゲットにしてほしい。</li> <li>・目標指標①「グローバル人材として活躍するための素地」に、海外に行ったことがある、外国人と交流したことがあるなどの要素を加えてはどうか。</li> </ul>
37	未来創造5(2)教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル人材として育ったこどもが、いかに県内で就職してくれるかを考える必要がある。県内企業での受け入れなど、連携強化が必要になってくる。</li> </ul>
38	未来創造5(3)教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標指標②に「授業でICT機器を週3回以上使用している児童生徒の割合」とあるが、10年後の姿として「週3回以上」で良いのかという点を再度検討すべき。</li> </ul>
39	未来創造5(3)教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間中学について、現状通えていない不登校のこどもたちが利用できるようにしてほしい。</li> </ul>
40	未来創造5(3)教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した不登校対策について、現状、ICTを活用できない家庭もある。まずは、不登校のこどもの学力の状況、どこで学習保障を受けているか、どのような日常生活をしているかなどを把握する必要があるのではないか。</li> </ul>
41	未来創造5(4)教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立学校に関する記載が少ないことを残念に思う。資格取得や競技力向上を目指す部活動、不登校生徒の積極的な受け入れなど、県立学校とは違った側面から大分県のこどもたちをサポートしているので、内容の充実を検討いただきたい。</li> </ul>
42	未来創造5(4)(6)教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人材や資源が学校で上手く活用されていないように感じる。学校・家庭・地域の連携の取組をさらに進めてほしい。</li> </ul>
43	未来創造5(5)教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおいた地域連携プラットフォームの取組には、デジタル分野や研究に関する内容をしっかりと記載いただいているが、地域課題の解決に関する取組も実施しているので、追記してはどうか。</li> </ul>
44	未来創造5教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの性別に関係なく、将来の進路の幅を広げられるような取組が大事。</li> </ul>